

以森伝心

理事長 柏原康夫 筆

No.
34

京都の森を守り育てる運動に参加しませんか

巻頭特集

伝統文化と森

「火が走る送り火」

——鳥居形送り火の継承の現場から

表紙写真：鳥居形の松明（京都市右京区曼荼羅山から）

特集2

森林の現状を考える

狩猟と森

インタビュー 垣内 忠正氏

■ 京都の森の仲間たち

篠町町づくり推進会長尾山部会（亀岡市）

■ 豊かな森を次世代へ

第40回全国育樹祭開催に向けて

第3回京都緑の子どもサミット

平成27年度緑化運動及び愛鳥週間ポスターコンクール

「火が走る送り火」——鳥居形送り火の継承の現場から

伝統文化と森

夏の夜空に浮かび上がる京都五山の送り火。先祖の精霊を送るため脈々と受け継がれてきた伝統行事のかげには、それを支える人と森との関わりがあります。

今回は、嵯峨鳥居本の曼荼羅山に灯される「鳥居形」の送り火を支える鳥居形松明保存会会長の荒毛谷さんにお話を伺いました。



保存会のメンバーが松明を持ち、親火床からそれぞれの火床まで走る。

松明に欠かせない「薪」と送り火

8月16日朝8時すぎ、当日の準備が始まります。保存会の皆さんが集会所に集まり、事前に小割して束にした松明を竹に縛り付け、曼荼羅山に担ぎ上げます。

山上での薪の数や役割は事前に決められており、7か所の親火床ごとに積み上げられます。鳥居形の松明は、他の山のように事前に井型に組まれるのではなく、それぞれの親火床から、鳥居の形に並べられた108の数の火床に、保存会の皆さんによって点火した松明が運ばれます。



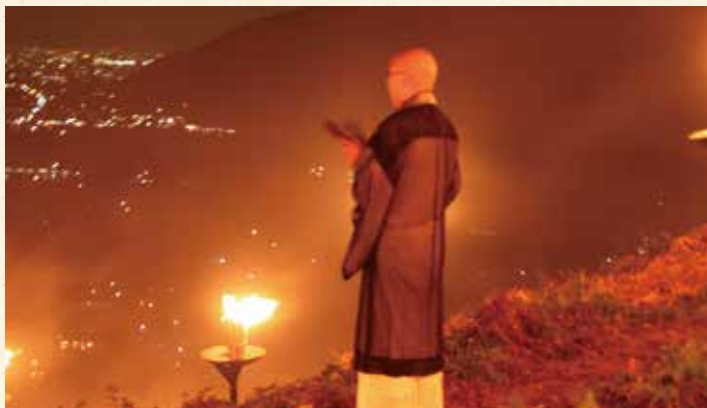
総勢40名ほどで松明の準備をする。

夕刻、再度集まった皆さんが、護摩木を運び上げ、親火として焚き上げはじめます。日が暮れ市内の明かりが灯り始めるころ、それぞれの親火床では松明が熱され、点火の時間を待ちます。



松明は全て人力で運び上げる。

定刻が近づき、東の山に大文字の明かりが浮かび上がると、現場の空気が変わります。緊張が高まった頃、保存会の会長が太鼓を打ち鳴らし、般若心経が唱えあげられる中、一斉に保存会の皆さんが親火床から点火した松明を各火床に持って走ります。「火が走る送り火」と言われる所以です。



美しい火へのこだわり

鳥居形の松明の独自性は、「火が走る」だけではありません。松明となる割木そのものも、松の根の脂気の多い「じん」と呼ばれる部分が使われ、他の部分よりも炎が赤く鮮やかで上に伸び、火勢が強いのが特徴といわれています。この「美しい火」が、保存会の皆さんの誇りであり、代々受け継がれてきたこだわりなのです。

次世代へ送り伝える伝統とそれを支える森

この松明となる松は、府内で広がった松枯れなどの影響で入手が困難となってきています。脈々と受け継がれてきた炎を灯す松と、それを育む森は、私たちの生活が里山から離れている間に、いつのまにか姿を変えています。

美しく灯る伝統の炎と、それを支える森—世代を超え受け継がれていくもの—は、一朝一夕に手に入るものではありません。先人からの知恵や思いを受け継ぎ、守っていくために私たちができることに思いを馳せながら見上げることで、来年の送り火は、また違った輝きに映るかもしれません。



親火床で熱される松明。松の脂が染み出してくる。

お話を伺った方

あら け だに じゅん
荒毛谷 潤さん (京都五山送り火連合会副会長
鳥居形松明保存会会長
公益社団法人京都モデルフォレスト協会理事)

PROFILE

右京区嵯峨鳥居本出身。13歳の時から鳥居形松明の保存、継承に関わる。平成19年より鳥居形松明保存会会長。



伝統文化を支える森づくり

当協会では、京都市右京区梅ヶ畑にある三井物産株式会社の社有林について同社、京都府と協定を締結し、京都の伝統文化に必要な薪や松明の材料を確保・育成する取組を行っています。

昨年11月には、鞍馬火祭保存会の協力を得て、広葉樹林の整備体験を行いました。今後とも、当地の森林資源が計画的かつ持続的に利用されるよう関係者と調整しながら取組を進めることとしています。



活動の様子（平成26年11月30日（日）実施）



ジビエ猟師

垣内 忠正さん

(株式会社ART CUBE代表取締役)

かきうち ただまさ

都会に居てもできること、
森や農地を守ることを受けている恩恵を感じてほしい。

京の田舎ぐらしナビゲーター。
平成25年京都の鹿肉・猪肉を扱う
食肉加工施設「京丹波自然工房」を開設。
平成26年10月、きょうと信頼食品登録制度
による登録を受ける。

森林の現状を考える—狩猟と森

福知山市三和町に移住されて28年、自らの経験を地元のために活かしたいと都市からの移住に関する相談に乗る一方、ジビエ猟師として活躍されている垣内忠正さんにお話を伺いました。

移住されたきっかけは

移住前は都会に住んでいたのですが、いずれは田舎で子どもを育てたい、という思いがありました。また、当時から趣味で狩猟をしており、その両方が実現できる環境を探し求め、三和町(当時)に家を持ちました。

当時と今の状況を見ると、田舎や周囲の森林の状況はびっくりするくらい変わっています。当時はシカを見ることも少なかったのに、今はシカだらけ。このあたりの猟師さんの獲物はイノシシでしたが、10年ほど前からシカばかりになりましたね。

そうした変化の原因は何でしょうか

山の奥まで猟師が入れなくなったということがあると思います。林業が昔ほど盛んでなくなったこ

とで、林道が手入れされず、人が山の奥まで入れない。また、かつて雑木を切って薪炭に利用していた里山の多くに戦後造林がされ、山の中の環境は大きく変わりました。新たに植林された森には新芽が多く、シカのエサが増えましたが、その後森に手が入らなくなり鬱蒼としてくると、今度は下草が生えず、シカのエサがなくなります。そして、増えたシカたちは里へ下りてくることになります。

一方で過疎高齢化により田畑の担い手が減り、耕作放棄地が増えている。そうし



依然として深刻な獣害に対処すべく行われる広域捕獲の様子。

た地域がけものの格好のエサ場となってきました。獣害は、動物が人間の住むエリアに入り込むことで起こります。昔は家があり、田畑があり、雑木林があり、と人の気配があり、動物にとっての境界線がありました。それが今や過疎化により空き家と耕作放棄地が増え、動物にとって格好の棲家となっています。森でエサが減ったことにより、昔はコメなど食べなかったシカが学習して今は田んぼをエサ場にしてしまったのです。

—— 猟師の育成にも尽力されていますね

狩猟を通じ、京都の農山村のいろんなところを訪れ、現状を肌で感じています。高齢化が進み、このままだと廃村になってしまうところも出てきています。そこで、自分が移住したときに情報がなくて苦労した経験を活かし、田舎暮らしをしたい人と地元をつなげるお手伝いをしたいと、7年前に不動産業を始めました。平成20年に京都府から「田舎暮らしナビゲーター」として認定をいただき、これまでに100組以上の方の移住をご紹介してきました。

最近では移住した人たちに、猟師になることをお勧めしています。そうすれば獣害が減らせ、地域にも貢献できます。獣害に困っているおじいちゃん、おばあちゃんとも仲良くなれるよ、といった話をしています。

昔は電話帳の職業欄に「猟師」の欄があったのです。それが今では猟師さんの年齢はほとんど80代。一匹オオカミで技を身に付けてこられた方々なので、簡単に人に教えたりしません。このままでは山村で受け継がれてきた狩猟文化が途絶えてしまう

と考え、昨年には猟師教室を開きました。元小学校の先生や若い女性の猟師も誕生し、今は次の猟期でのデビュー待ちです。

—— 食肉加工施設も開設され、ジビエの普及もされていますね



食肉加工施設「京丹波自然工房」。
個体が厳密に管理されている。

丹波のイノシシは、なだらかな地形と豊かな山の恵みから脂の乗りがよく、昔から美味とされてきました。近年力を入れている鹿肉も、フレンチのレストランや料亭で好評いただいています。これらの食肉としての流通を確固たるものとしていこうと、昨年国が策定したガイドラインに先駆けて食肉加工施設をつくりました。個体管理など徹底し、味も品質管理も、どこに出しても恥ずかしくないと思っています。

これからも、田舎暮らしや狩猟、ジビエの普及などについて情報発信をすることで、都会の皆さんにも森林や里山の現状を知り、目を向けてほしいと思っています。都会に居てもできること、森や農地を守ることで受けている恩恵を感じてほしい。それが私にできる、地元への恩返しかなと思っています。



狩猟の現場での垣内さん

インターンレポート

エスベック株式会社 (お話 土田 真奈見さん)

「鹿肉を食べて森を守る活動」として、社員食堂で2か月に1回鹿肉ランチを提供されています。「京丹波自然工房さんの鹿肉を利用しています。はじめは鹿肉に抵抗を持つ人もいますが、きちんと加工・調理すれば、臭みも全くなくおいしいです。自分でも使うきっかけになれば嬉しいです」とおっしゃっていたのが印象的でした。鹿肉の利用については関心があるので、これから自分でも勉強していきたいです。

協会インターン 鮫島 達矢(京都府立林業大学校2回生 キャップストーン研修)



鹿肉を利用した社員食堂のメニュー



鹿肉の赤ワイン煮



▶ お話を伺った二人
会長 原田さん(左)・副会長 軽野さん(右)



【 篠町 町づくり推進会 長尾山部会 】

長 尾山部会は、京都府亀岡市南部に位置する長尾山にて、散策道の整備、除間伐、植樹、薪づくりなど幅広い活動を行っているボランティア団体だ。活動日は、毎週木曜日と第二土曜日、第四日曜日の月6回。年二回行っているイベント「長尾山フィールドワーク」には、山歩きと山仕事体験が楽しめ、更に元シェフのメンバーによる豚汁や椎茸ご飯が振る舞われるとあって、毎回150人から160人が参加するという。また、こまめに手入れされている長尾山は、近隣の幼稚園などの子どもたちが訪れ、街中では味わえない自然との触れあいを安全に楽しめる貴重な場ともなっている。

今 では市民がハイキングを楽しみ、子どもたちが気軽に遊びに来られる長尾山だが、お二人の話によると、活動開始当初は、今の長尾山からは想像しづらいほど荒れていたという。約32haの活動地は、20年ほど前に火葬場用地の計画が頓挫した後、2007年の長尾山部会の発足まで放置されていた場所なのだ。「はじめは、背丈よりも高く草が茂っててね。」と、原田さんは手振りと共に教えてくれた。



長 尾山部会の活動をやっている良かったと感じることについて、お二人に伺ってみた。「汗をかいて仕事をすることで、体も締まり健康になる。」「会社人間だったニュータウンの者同士が知り合いになり、関係が深まる。」との返事が返ってきた。チェーンソーを用いての作業や、階段の設置、展望台へのベンチの搬入・設置など、体が締まるのもっともな作業をたくさんこなされているのだ。軽野さんは言う。



◀ 森の中を散策する子どもたち

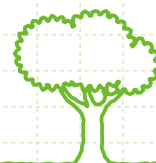


▶ 木を切る体験も子どもたちには新鮮

「健康のためにお金払ってジムに行くのもええけど、山仕事も楽しいですよ。」自分の健康を守りながら、故郷の里山を、故郷の未来を守ることができる。お二人の穏やかな笑顔と引き締まった上腕を見ていると、それが偽りのない事実だということがよく分かった。

原 田さんも、軽野さんも、子ども時代に野山で遊んだ原体験が長尾山部会に参加した大きなきっかけとなっているという。様々な機会に子どもたちに山歩きの楽しさや自然の不思議さを伝えている長尾山部会の活動は、大人になったときに再び彼らを山へと駆り立てる原体験となることだろう。

(文章：音無 知展／協会学生ボランティア)





豊かな森を次世代へ

第40回全国育樹祭開催に向けて

第3回京都緑の子どもサミット開催

7月31日～8月1日に、緑の少年団をはじめとする子どもたちが交流・学習する「京都緑のこどもサミット」を開催しました。

今回は昨年に続き、当協会とパートナー協定を締結している北海道下川町の子どもたちも参加した他、2日目には、一般参加の子ども達も加わりました。

森林散策・クイズラリーの他、平成28年秋の全国育樹祭の開催に向けて木に肥料を与える育樹活動など、暑い中にも関わらず参加者の皆さんには熱心に取り組んでいただきました。



子どもサミット参加リポート

8月1日、猛暑の中、宇治市太陽が丘の「ふれあいの森」に元気な子どもたちが集合。開会式の後、いくつかの班に分かれてグループごとに木に肥料を与えたり、クイズラリーに挑戦したり、木工教室で様々な材料を活かして作品作りを楽しんだりしました。連日の猛暑で木の回りの土が乾き固く、肥料がうまく混ざらず悪戦苦闘している子もいたようです。森を散策しながらのクイズラリーでは、難問もあり、普段よく森で活動しているメンバーでも真剣に知恵を出し合っている様子が印象的でした。子どもたちにはあつという間に過ぎた楽しい時間だったようです。「もっとやりたい!」という声がたくさん聞こえていました。親子連れなどもっと多くの一般参加に楽しんでもいただける内容だと思いました。



(以森伝心ボランティア 森 稔)

平成27年度緑化運動及び愛鳥週間ポスターコンクール入賞者が決定

次代を担う児童や生徒の皆さんに、緑の大切さを知り、自然や野鳥をいたわる気持ちを持っていただくため、府内の小、中、高等学校等を対象に毎年緑化運動及び愛鳥週間ポスターコンクールを実施しています。

本年度も2,441点と多くのご応募の中から入賞作品が選ばれ、9月5日(土)～8日(火)まで京都府立植物園(京都市左京区)で作品展示を行いました。

京都モデルフォレスト協会理事長賞受賞作品

緑化



亀岡市立
城西小学校1年
市原 颯さん

愛鳥



京丹後市立
丹波小学校5年
花光 悠人さん



京丹波町立
下山小学校4年
大槻 遥斗さん



京都市立
花山中学校3年
宮崎 竜登さん

事務局からのお知らせ ―活動報告―



平成27年7月4日・5日 宇治市内

「京都大作戦2015」でPR活動

京都府立山城総合運動公園（太陽が丘）で行われた野外音楽フェスティバル「京都大作戦2015」（FM京都主催）において、当協会会員の森林ボランティア団体「フォレスターうじ」、京都府立大学森林ボランティアサークル「森なかま」の皆さんと一緒にモデルフォレスト運動のPRと緑の募金活動を行いました。



平成27年7月7日～12日

カナダプリンスアルバートモデルフォレスト訪問



この3月に「地域主体の森林資源管理に関する国際シンポジウム」を共催したことがきっかけでサスカチュワン大学より招へいをうけ、事務局職員が7月初旬カナダ・プリンスアルバートモデルフォレストの

調査に訪れました。出席した理事会では、京都のモデルフォレストの取り組みを紹介するとともに、両者の共通性や違い、今後の連携の可能性などについて議論しました。今後も、連携に向けての情報交換を進めていきます。

平成27年7月23日 亀岡市内

企業等参加の森林づくりミーティング開催

京都府内で森林づくりに取り組まれている企業担当者や京都府等のご関係の皆様にご出席いただき、事例発表と意見交換を行いました。前半は安全面や参加者が楽しみながら継続できる企画への工夫、配慮などについて熱心な情報交換のあと、後半は株式会社村田製作所様が活動されている「ムラタの森」を見学し、実際に森林でできる丸太切り体験などのワークショップを実施。「実際に現地を見ることができてよかった。」「自社内だけでは思い付かなかったいろんな取組を知ることができた」といったご感想をいただきました。



平成27年8月9日 京都市西京区

「子ども夏休み森林教室@大学の森」開催

猛暑の中、年長～小学3年生までの子どもたちと保護者が参加。京都森林インストラクター会の指導によりフィールドビンゴをしながら夏の森を散策。京都府立大学森林ボランティアサークル「森なかま」の皆さんによる間伐の説明と実演体験のあとは子どもたちも森を元気にするためのお手伝い。午後は森で見つけた木の切れ端や葉っぱなどで自分だけの作品づくりを楽しみました。



緑の募金ご協力をお願い

緑の募金は、森づくりや緑化活動、「緑の少年団」活動に使われています。皆様のご協力をお願いいたします。

● 郵便振替や銀行振込で

いつでも、どこでも、誰でも募金ができます。

- | | |
|---------------|---------------------|
| 1. 郵便振替 | 2. 銀行振込 京都銀行府庁出張所 |
| 00990-1-83253 | 普通 3154305 |
| 公益社団法人 | 公益社団法人 京都モデルフォレスト協会 |
| 京都モデルフォレスト協会 | 理事長 柏原 康夫 |

● 商品購入や募金箱で

「緑の募金付き商品」を購入したり、各所に設置された「緑の募金箱」に直接募金することで、ご協力いただけます。「緑の募金付き商品」開発・販売や募金箱の設置等、様々な形でご協力いただける店舗様、事務所様も募集しています。

平成27年春の募金実績

11,542,412 円

ご協力ありがとうございました。

THE NEW VALUE FRONTIER



京セラ株式会社

地元で育てた木を地元で使うと、森が、元気になる。／

木づかいで、森づくり

一般社団法人 京都府木材組合連合会

〒604-8417 京都市中京区西ノ京内畑町41-3
Tel: 075-802-2991 Fax: 075-811-2593
<http://www.kyomokuren.or.jp/>

発行: 公益社団法人 京都モデルフォレスト協会
〒604-8424 京都市中京区西ノ京樋ノ口町123 京都府林業会館3階

TEL&FAX 075-823-0170 E-mail kyomori@kyoto-modelforest.jp

URL <http://www.kyoto-modelforest.jp> [facebook](https://www.facebook.com/KyotoModelForest) <https://www.facebook.com/KyotoModelForest>

2015年10月発行

入会案内資料をご希望の方は
ご連絡ください。

